

1 単元 球技 ア ゴール型 「サッカー」 ～役割を見つける～

2 指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは、バレーボールの学習において、得点を奪い失点を防ぐために、チーム内での自分の役割を考えながらゲームに取り組む経験をしている。そこでは、自分に適した役割を把握し、ポジション編成について話し合い、ボールを拾ったりつないだりするための動き方に着目しながら、基本的なボール操作、各ポジションの定位置、準備姿勢などを捉えてきた。このような子どもが、サッカーのゲームにおいても、チーム内での役割を考えながらポジション編成を考える活動に取り組めば、自分なりの運動の楽しさを見出すことができるだろう。

そこで、単元を構想するにあたっては、次のような教材を設定する。

＜教材について＞

本教材は、ルールや場を工夫し、主に足を使ってゴールにボールを入れることができるかどうかを集団で競い合いながら、運動の楽しさや喜びを味わうことができる教材となっている。ここでは、簡易的なゲームをしながら、チーム内で分担した役割に応じた活動の仕方を見つけることが大切である。子どもは、「さぐり」で個人の運動やチームの動き方の課題をどうすれば解決できるか試行錯誤しながら、ゲームの中での役割を話し合ったり、役割に応じて動き方を工夫したりしながら課題を克服したり、自分に適した運動の行い方を捉えたりするだろう。

そのような学びを実現するために、指導に当たっては、次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

- 単元の初めに、ゴールを奪うために必要なことを調べる活動を設定する。そうすることで、単元を通して自分の意見を明確化・更新しながら学習に取り組むことができるようにする。
- 単元の中から、チーム編成を変更し、役割やゴールを奪う方法などについて話し合う活動を設定する。そうすることで、自分が前のチームで経験したことや考えたことを基に、よりよいチームでの動き方やポジション編成を見出そうとすることができるようにする。
- 単元を通して、「話し合ったこと」「チーム内での役割(実際の様子)」「自分が考えたこと」を記録させることで、学習の過程を形成的に振り返ることができるようにする。

3 目標

- (1) 技術の名称や行い方などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 【知識及び技能】
- (2) 自己の課題の合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 積極的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに参加しようとする、仲間の学習を援助しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

4 指導計画（総時数 8 時間）

次	学習活動・内容	単元の指導上の留意点
一 ②	○ 簡易化されたゲームを行い、サッカーの特性を知る。 ・運動の面白さ ・運動の行い方 ○ 個人でゴールを奪うために何が必要か調べたり捉えたりする。 ・学習の見通し ・運動の行い方 ・よりよいルール設定	○ 単元の初めには、簡易化されたゲームを行った後に、個人でゴールを奪うために必要なことを調べる活動を設定する。そうすることで、単元を通して自分の意見を明確にしたり更新したりしながら学習に取り組むことができるようにする。 ○ 単元を通して、振り返りシートに、「話し合ったこと」「チーム内での役割（実際の様子）」「自分が考えたこと」を記録させる。そうすることで、ゴールを奪うという目的を中心に、チームや個人で行ったことや話し合いまでの過程を形成的に振り返ることができるようにする。
二 ⑥ 本時2／6	● ゴールを奪う方法をチームで検討しながらゲームを行う。 ・ゲームにおける役割分担 ・課題解決の見通し・方法 ○ ゲームの中で必要なボール操作と動き方について、自分の課題を解決する活動を設定する。 ・シュート、パス、キープの仕方 ・空間に走り込む動き ・相手をマークする動き	○ 単元の中から、チーム編成を変更し、役割やゴールを奪う方法などについて話し合う活動を設定する。そうすることで、自分が前のチームで経験したことや考えたことを基に、よりよいチームでの動き方やポジション編成を見出そうとすることができるようにする。 ○ 自分の技能の課題に応じて個人や集団で解決する時間を設定する。そうすることで、ゲーム内での動きを振り返り、次の課題解決につなげることができるようにする。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて言ったり書いたりしている。 ②ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ③パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。 ④パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。	①仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ②体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。	①作戦などについての話合いに参加しようとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。

6 本時案 ー第二次・2時分ー

(1) 主眼 より適切な方法を考えながら簡易化されたゲームを行う活動を通して、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けることができる。

(2) 準備 サッカーボール、得点板、タイマー、コーン、バー、ビブス

(3) 学習の展開

学習活動・内容	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1 前時の振り返りを基に本時の学習にどう取り組むか話し合う ・学習の見通し ・動きの見通し ・ポジション編成考案	ア チームが変わったから、皆がどんな風に動いていたか聞きながら、ゴールを奪う方法を考えよう イ どこに誰が動いてボールを受ければいいのか決めて作戦にしてみよう ウ 前は守備が中心だったけど、攻撃参加もしたいな	・ これまでのチームでの役割について話し合う活動を設定する。そうすることで、自分が経験したことを基によりよいチームでの動き方を見出すことができるようにする。	10
2 個の課題に応じた練習を行い、ポジション編成を考える ・課題解決の方法 ・ボール操作 ・ボールを持たない動き	ア ドリブルでボールを運ぶのが難しいな イ パスが思ったところにいかないな ウ ゴール前でパスを受けた後にシュートするのが難しいな エ 何を練習したらいいのか分からないな	・ 個々の課題に応じて活動を選択できる場を設定する。そうすることで、自分に必要な練習内容を見つけやすくし、何から練習すればよいか分からない生徒も意欲的に取り組めるようにする。	25
3 ポジション編成を再考し、簡易化されたゲームに取り組む ・友達の意見のよさ ・動き方の良さ悪さ ・役割に応じた動き方	ア ○○さんはシュートが得意なので前線を任せよう イ 守備が中心だけど、前に空いている場所があるから攻撃にも参加しよう ウ ゴール前までは進めるけど、なかなかシュートが打てないな	・ チームメイトの良さを生かしたポジション編成を再考する場面を設定する。そうすることで、仲間と協働しながらチームの戦略を立てられるようにする。	45
4 ゲームでの役割と話し合った内容を振り返る ・新たな課題設定 ・次時への見通し	ア ゴール前は守備が固いから、もっと早くパス回しをしなければならないな イ シュートが打てない時は、相手にパスカットされないところに動かないといけないな	・ ゲームを通じた課題を伝え合う場を設定する。そうすることで、今回の課題を次回につなげることができるようにする。	50

(4) 評価規準と方法

より適切な方法を考えながら簡易化されたゲームを行う活動を通して、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けることができたか、活動の様子や振り返りシートからみとる。

<メモ>

ルールや場の工夫

- ・ 2 ゴール
- ・ 3 人対 3 人
- ・ 全員にパスが回ったらシュート可
- ・ D F エリアには D F しか入ることができない
(ただし、10 秒間のみ。一人が連続して入ることはできない。)
- ・ 5 秒以内にパスかシュートをしなければならない
- ・ ボール保持者から 1 m 以上離れなければならない (敵も味方も)
- ・ ゴールの後ろに味方を配置し、ゴールに入ったボールがその人に渡れば 2 点